

11月1日 灯台記念日

日本最初の洋式灯台である観音崎灯台（三浦半島東端）の起工日が、1868年の新暦11月1日であることにちなみ、1949年海上保安庁が制定しました。今年の灯台記念日は明治元年より145周年を迎えます。

江戸末期、開国したばかりの日本は、光の届かないくらい灯明台や常夜灯しかない上、日本近海は暗礁が多かったので、諸外国から西洋式の灯台を設置するように要請がありました。

1866年5月にアメリカ、イギリス、フランス、オランダの4ヶ国と結んだ改税約書で8ヶ所、1867年4月にイギリスと結んだ大坂約定で5ヶ所の灯台を整備することが定められました。

第二次世界大戦直前期には400基まで増えましたが、相変わらず外国の水準とは隔たりがあり「暗い海」と言われていました。

現在では全国に3224基の灯台があり、すべてが自動化されています。そしてそのうちの78%、2528基がLEDになっているそうです。明るくて省エネの灯台になっているのですね。

灯台と言えば・・・

♪俺ら岬の 燈台守は 妻と二人で 沖行く船の、無事を祈って 灯をかざす 灯をかざす ♪

1956年に雑誌掲載された福島県塩屋崎灯台長だった田中績氏の妻、きよさんの手記をもとに映画やドラマが作られました。何回かドラマになったので、なんとなく覚えていますが、この歌は印象深く覚えています。

今では、家族で灯台に住み込むなんて考えられませんが、物資の乏しい中日本全国を転勤する過酷な勤務と夫婦愛が描かれ、当時大ヒットした映画だったようです。

観音崎、御前崎、安乗崎、野寒布岬、三原山、五島列島、瀬戸内海の男木島、女木島など全国でロケが行われ、景色を楽しむことも出来るようです。このロケ地のひとつである長崎の女島灯台は、日本で最後まで職員が滞在した灯台でした。

青い海、青い空の中にたたずむ白い灯台は何とも美しい風景です。灯台記念日の前後には、灯台の内部を公開するところもあるようです。出かけてみたいですね。

写真は、「日本の灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンが日本で最初に設計し、1870年7月8日に初点灯した日本最初の石造灯台です。日本最初の回転式閃光灯台でもあり、その初期の建物が現存しています。

エルトゥール号遭難（1890年9月16日）の場所としても知られる檜野埼に建っています。

11月2日 1758年（宝暦8年10月2日）良寛が生まれました。

良寛さんと言えば、玉島 円通寺で修行したことは有名ですね。出身は越後の国（新潟県）で名主の跡取り息子だったようですが、親兄弟との縁を切って僧侶としての修行を始めたそうです。

22歳の時に円通寺の国仙和尚と出会い「生涯の師」と仰ぎ厳しい修行をしたそうです。そこでは「一日作らざる者は、一日食わず」の教えでお経を唱えることより勤勞することに勤しんだと言われています。

また、漢詩、狂歌、俳句、俗謡に巧みで、書の達人でもありました。「子供の純真な心こそが誠の仏の心」と考え、子供とかくれんぼや手まりつきをして遊ぶのを好んでいました。

良寛さんの逸話には、子供の頃「親をにらんだらヒラメになる」と言われたことを信じて、浜辺にずっと座っていたとか、庵の床を突き抜けて生えてきた筍をそのままにしていたとか、かくれんぼで子供が帰ったあとでも、ずっと隠れていたとか、優しく純真な人柄を表すものがたくさん残っています。

漢詩の中に

我生何処来
去而何処之
独座蓬窗下
兀々静尋思　　・・・・・・・・

というのがあります。「私の命はどこから来てどこへ行くのか。ひとり荒れた草庵に座禅して、動かず静かに考える。・・・・結局 移りゆく空しい時間の中に自分がいるに過ぎない。なすがままに、ゆったりと生きていきたい」といった意味のようです。

ふと、最初の出だしのところで「アンパンマンのマーチ」の歌詞を思い出しました。

♪そうだ！嬉しいんだ生きる喜び
たとえ胸の傷が痛んでも

何の為に生まれて 何をして生きるのか・・・
答えられないなんて そんなのは嫌だ！♪

子供が大好きだった良寛さんと子供のための絵本をたくさん書いた、やなせたかしさん、ちょっとリンクしてしまいました。

多くの文学者が良寛さんの影響を受けた作品を書いたり、思想に感銘を受けたと言ったりしています。もっと良寛さんについて知りたくなりました。

11月3日　　まんがの日

マンガの日といわれる日は11月3日以外に、漫画本専門古書店「まんだらけ」が制定した漫画家・手塚治虫の命日である2月9日と、イギリスの絵入り諷刺週刊誌『パンチ』が発刊された7月17日があります。

11月3日は日本漫画家協会と出版社5社が2002年に制定。「漫画を文化として認知してもらいたい」という目的で制定しました。マンガの神様 手塚治虫の誕生日でもあります。

いまやクール・ジャパンの旗振りでもあるマンガ文化ですから、どんな人でも、ひとつやふたつマンガにまつわる思い出があることでしょう。かつては「マンガを読んだら馬鹿になる」なんてPTAのオバチャンもいたけど。

しかし、その分マンガが世論に及ぼす影響もハンパではなくなっているようです。例えば今年話題になったといえば「はだしのゲン」そして「風立ちぬ」。

残虐なシーンがあるので小学生には読ませないとか、タバコを吸うシーンが喫煙の推奨になるとか、ちょっとトンチンカンな議論にもなりかねません。文化、芸術としてのマンガが、人々の良心で成り立って欲しいものです。

11月4日 1946年ユネスコ憲章が発効し、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が発足しました。

UNESCOは、第二次世界大戦後、二度と戦争の惨禍を繰り返さないように、各国政府が加盟する国際連合の専門機関として創設されました。本部はフランスのパリにあります。

日本は1951年7月2日に60番目の加盟国となりました。戦後の日本が初めて加盟した国連機関で、日本にとって戦後の国際社会への復帰の契機となったのがユネスコの加盟でした。

これは民間ユネスコ活動から起こったユネスコ運動が、政府、国会等に波及しユネスコ加盟へつながったものでした。

ユネスコ憲章の前文に

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった」

と書かれているように、人々がちゃんとした教育を受け、理解しあうことで戦争を防ごうというものです。

ユネスコの活動といえば、識字率の向上や義務教育の普及のための活動、極度の貧困の半減、普遍的初等教育の達成、初等・中等教育の男女差別の解消、世界遺産の登録と保護、世界の記憶事業など多様です。

このような高尚な活動内容であるにも関わらず、一時はアメリカ、イギリスという大国が脱退するという危機的な時期がありました。

ユネスコの存続が危ぶまれるこの時期、日本はユネスコにとどまり分担金の約4分の1近くを担う最大の拠出国として、存続に大きな役割を果たしています。

第8代事務局長、松浦晃一郎氏はユネスコの全面改革を指揮し、高く評価されました。また、2013年のユネスコの分担金は約30億8千万円(10.8%)で、アメリカについて日本が拠出しています。(アメリカが22%、ドイツが7%、フランスが5.6% イギリスが5.2%)

経済大国といわれながら、普通に暮らしては、なかなか実感することはありませんが、このように世界的な活動にたくさんお金を出しているのですね。

その分ほどには、発言権は無いのかもしれませんが。そこが奥ゆかしい日本という国なのかも・・・

11月5日 1972年上野動物園でジャイアントパンダ・カンカンとランランの一般公開が始まりました。

田中角栄総理大臣が9月に訪中し周恩来首相と会談し日中共同声明の調印を行いました。

そして、中国交回復を記念して、中国からの「ランラン (蘭蘭)」と「カンカン (康康)」の2頭のジャイアント・パンダが親善大使として来日しました。

国交が正常化したばかりだったからなのか、それとも国賓扱いのパンダが乗っていたからなのか、パンダを乗せた旅客機が日本の領空に入ると、編隊戦闘機で護衛されたほどだったといわれています。

11月4日には東京の上野公園で盛大な引渡し式が行われ、日本側の責任者は、「2頭のパンダは中国国民が日本国民に贈ってくれた最もすばらしいプレゼントで、11月4日は日中両国国民の友好を象徴する日」と話したそうです。

公開が始まった5日は、1日で上野動物園には6万人もの見物客が押し寄せ、600人の警備員が警戒に当たったそうです。パンダ舎の前は、立ち止まることさえ許されず、パンダの姿はチラリと一瞬、しかも寝ているところが見えただけ・・・なんて話でしたね。

ところで中国の「パンダ外交」は千年にわたる歴史があるそうです。日本の史料に残された記録によると、685年に、則天武后はその即位の年に日本の天武天皇につがいのパンダ2頭と毛皮70枚を贈ったとあるそうです。

1957年にはソ連、1972年にはアメリカと日本、1973年にはフランス 1974年にイギリス、1975年にメキシコ、1978年にはスペイン 1980年には西ドイツ・・・

1975年の「ワシントン条約」(CITES)に基づいて、外国の動物園は貸与の方式、科学研究交換の名義でしかパンダを手に入れることができなくなっています。

パンダ外交を姑息だと考えるか、友好的手段と考えるかは人それぞれでしょう。しかし、それぞれの国で大切にされ子供たちや大勢の人々に愛されるパンダを通して中国と交流があるのも友好のひとつですね。

パンダに妊娠の兆候があるとか、生まれたらいいとか、ずいぶん過熱した報道に辟易しましたが、やっぱり、パンダはかわいらしいです。

11月6日 1814年アドルフ・サククスが生まれました。

サクソフォン?! そう、楽器のサクソフォンを考案した人です。サクソフォンって、考案され特許を取得した楽器だったので
すね。楽器は、古代から徐々に進化したものばかりと思っていました。葦笛がフルートに、草笛がリード楽器
に、角笛がラッパになっていったように・・・

アドルフ・サクソの父親も、楽器製作者で、ホルンの設計に功績があったそうです。彼自身も幼い頃から楽
器の製作に携わり、15歳の時にはフルートとクラリネットをコンペティションに出展し入賞しました。

その後、ベルギーのブリュッセルで楽器製作を学び、本格的に楽器の製作に取り組みました。当時は軍楽隊が
盛んで、屋外で力強い弦楽器に近い音色を出す楽器が求められていました。

1838年にブリュッセルにおいてアドルフは金属でできたバスクラリネットの特許を取りました。これがサ
クソフォンの原型になり、1846年にはフランスのパリで特許が申請されて「サクソフォン」と命名されまし
た。

サクソフォンは木管楽器の機能を持ちながら、金管楽器との調和がはかれる楽器として、多くの作曲家が重宝しま
した。クラシック音楽からポップス、ロック、ジャズに至るまで、様々な分野の音楽で用いられます。

指使いが効率的なことと音を出すのが簡単なことは、他の楽器に類が無いほどで、発明されてから現在まで、
形がほとんど変わっていないというのは、当時の設計が完璧だったからなのですね。

11月7日 1867年マリ・キュリーが生まれました。

キュリー夫人と言えば、子供向け伝記の定番です。女性の偉人なら、ヘレンケラー、ナイチンゲール、キュリ
ー夫人ですね。勉学に励み、優秀な科学者で夫とともに研究し、二度もノーベル賞（物理学賞と化学賞）を受
賞し、しかも子供も優秀で、キュリー家ではノーベル賞を五つも受賞しているなんて、すごいんです。（本人が
2つ 夫、娘、娘婿 各1つ 計5つ）

キュリー夫人の業績といえばピッチブレンド（瀝青ウラン鉱）の残渣からラジウムとポロニウムを精製し、発
見したことです。

その上、当時ロシアに制圧されていたポーランド人だったということ、女性であるという偏見にかかわらず学
問の道を突き進んだこと、研究に忙しいのに、夫婦仲良く優秀な子供を育てたこと、しかもたくさん賞を受賞
している割には、研究費がかさんであまり裕福ではなかったとか・・・

研究の成果以外にも評価されるべきところは、いろいろあるようです。でも、いくつかある、キュリー夫人の
ラブストーリーは映画になるほどなのだから。なにせ知性がある美人ですから・・・

ところで、ラジウムの存在証明のため何トンもの廃鉱石を大釜で1000万分の1まで煮詰める作業で精製をした
ので、今でもキュリー夫人のノートは防護服なしで触れないほどの放射線を発し続けているそうです。

放射能って、やっぱり怖いですね。キュリー夫人も白血病で亡くなっています。

11月8日 1895年ヴィルヘルム・レントゲンがX線を発見しました。

ヴィルヘルム・レントゲンは特定の波長域を持つ電磁波を発見し、数学の“未知数”を表す「X」として、X線と名づけました。

X線は普通の光より物質を通り抜ける力が強く、人体に当てると骨や筋肉に当たって、様々に弱まります。その性質を利用して体の内部をフィルムに撮影するのが、レントゲン撮影（X線写真）の原理です。現在ではレントゲン、CTなどの医療分野、非破壊検査などで使われます。

この発見の功績によって1901年、第1回ノーベル物理学賞を受賞しています。放射能の発見はアントワヌ・アンリ・ベクレル、そしてそれぞれに「放射線」「放射能」と名前をつけたのが、キュリー夫人というわけです。ベクレル博士は、キュリー夫妻と同時、1903年にノーベル賞を受賞しています。

キュリー夫妻は放射線を出す物質のラジウムを発見しました。X線も放射線ですが、ラジウムが出すのはガンマ線でX線ではありません。検診のレントゲン装置に放射性物質が入っているわけではなくて、真空のガラス管の中で人工的に高速の電子を金属にぶつけることで瞬間的にX線を発生させるそうです。

原発事故依頼、放射線の測定値をレントゲン写真何枚分とか表現するのを聞きますが、放射線＝放射性物質というわけではなさそうです。あれほど、ベクレル、シーベルトの解説をTVで聞いたつもりなのに、いまだに完全には理解できていないようです。

昨日に引き続いて、本日もキュリー夫人に登場いただきました～～

11月9日 1934年カール・セーガンが生まれました。

セーガン氏は「核の冬」の提唱や「宇宙カレンダー」という考え方で、大変人気があった天文学者であり作家でした。もう30年ぐらい前になります。ボイジャーに搭載されたゴールデンレコードも彼の提案だったそうです。

しかし、このタイミングでカール・セーガンですよ～！

先日 アメリカのカリフォルニア大の研究から恒星の22%が地球型の惑星を持つと結論を出したと発表されました。地球と同じように生命体、そして文明を持つ、いわゆる人類が存在する可能性があるということですね。

セーガン氏のSF小説を映画化した「コンタクト」は1997年にアメリカで作られました。

宇宙から断続的に発信し続けられる有意な電波信号を受信し、この電波を解読すると、そのメッセージは宇宙の移動装置の設計図だと分かりました。その装置を作り上げ、実際に宇宙に出て体験したことは・・・

セーガン氏は超常現象や宗教的なことは信じない人だったようですが、映画の結末では「科学と宗教の違いこそありますが、目指すものは同じです」と結んでいます。

主人公が子供のとき、父親が「地球人だけじゃ広い宇宙が勿体無い」と言うのです。確かに！！

日本人初の船長として若田光一さんは今、国際宇宙ステーションに滞在していますが、宇宙から見たら地球はどのように見えるのでしょうか。そして何を感じるのでしょうか。

宇宙に行った人は「自分がどんなにちっぽけか痛感する」「見えない大きな存在を感じる」などの感想を持つと聞きました。

目に見えない大きな存在・・・見えないものは無いということではない。そう考えれば、私たちの知っていること、分かることなんて、微々たるものです。どんなに賢い人でさえ、所詮人間の分ることって、たかが知れてるんですよ。

人間の微々たる知識を積み重ねて大きな文明になると考えるのか、人間奢るなかれと考えるのか・・・。

11月10日 1989年ベルリンの壁が壊されました。

東西冷戦の象徴といわれた「ベルリンの壁」が壊されたのは、ギュンター・シャボウスキーという東ドイツのスポークスマンの勘違いによって引き起こされました。

1961年の8月に作られたベルリンの壁は、東ドイツにある、ベルリンのうち西ベルリンをぐるりと取り囲む壁のことで、周囲155km、岡山からなら広島までの距離に相当するものでした。

第二次世界大戦後、東西に分けられたドイツは、西ドイツが経済成長で豊かになるのに比べ、東ドイツの経済状況は悪化の一途で、東ドイツの多くの人々が西側に出国していきました。

そこで東ドイツの政府高官は国民が国を去るようでは、社会主義国家は作れないと考え壁を作って強制的に国に留まるようにしました。

冷戦が収束に向かっていた1989年10月から東ドイツの人々は公然と路上で反政府デモをするようになり、デモへの参加者が次第に増えていきました。政府はそうした事態に対応するため、「旅行許可に関する出国規制緩和」の法案を決議しました。

これには、外国旅行は目的の如何に関わらず無条件で認める、出国ビザを遅滞なく発給する、法令の発令は11月10日午後4時とされていましたが、ギュンター・シャボウスキーは慣れない記者会見の準備に追われ、内容をよく理解しないまま、9日午後6時に・・・

どこにでも自由に外国旅行が出来る。時期は遅滞なく（今すぐから）とTVの生放送で発表しました。

それで、東ベルリン市民が検問所に大挙して押し寄せ、何も上からの通達の無い国境警備隊と揉めることにな

りましたが、「TVで言ったんだから、間違いない」と市民に抵抗され、ついにベルリンの壁が解放されることになりました。そして10日未明から、ツルハンやら大槌をもった人々によって壁が壊され始めたというわけです。この歴史のお祭り騒ぎは三日三晩続いたそうです。

ベルリンの壁はもう昔話になってしまいましたが、いまだに旧西ドイツには旧東ドイツ地域の復興を支援するための連帯税や、旧東ドイツ地域には健康保険や補助金などの支援制度があるそうです。

壁を取り壊しただけでは、人々は平等にはならなかったということのようです。

11月11日 1924年寿屋（現在のサントリー）が京都・山崎に日本初のウイスキー蒸留所（山崎蒸溜所）を竣工しました。

当時、寿屋の社長鳥井信治郎は、本格的なウイスキー製造を目指しスコッチウイスキーの本場スコットランドでウイスキー製造を学んだ竹鶴政孝を招聘しました。

本格的なスコッチウイスキーを作るために、本場から技術者を呼ぼうと考えた鳥居がスコットランドに問い合わせたところ、「わざわざ外国から呼び寄せなくても、日本には竹鶴という適任者がいるはずだ」という回答を得たそうです。

そのとき、竹鶴政孝は大阪の中学校で化学の教師をしていました。第一次世界大戦後の戦後恐慌によって資金調達ができなかったため、純国産のウイスキーを作る計画が頓挫していたからです。

鳥井は、スコットランドから技師を呼ぶつもりだった費用、年俸四千元という破格の給料で竹鶴を採用しました。

「良い原酒は良い水が生み、良い熟成は良い自然環境なしにはあり得ない」その確信のもとに、全国の候補地から京都郊外の山崎に工場を建設しました。

1929年4月1日「断じて舶来を要せず」のキャッチフレーズで、最初のウイスキー『サントリー白札』を発売しましたが、当時の日本人には受け入れられず、本格的なウイスキーの発売までは、8年後の「サントリーウイスキー12年」（のちの角瓶）の発売まで待たなくてはなりませんでした。

醸造酒のアルコール度数がせいぜい16%~20%限度のところ、ウイスキーのような蒸留酒は、エタノールを気化させ蒸気を集めて冷却し液体に戻すとアルコール度数の高いお酒を作ることが出来ます。こうしてできた蒸留酒を木製の樽で熟成させて豊かな風味と色合いが生まれるのです。

最近ではウイスキーを炭酸で割ったハイボールが、静かなブームなのだとか……。その他にも、カクテル風を楽しむ飲み方もたくさんあるようです。ほどほどにお酒を嗜むのも大人の楽しみですね。

11月12日 1840年オーギュスト・ロダンが生まれました。

19世紀を代表するフランスの彫刻家で『近代彫刻の父』とされています。

14歳から3年、古典主義の彫刻家のもとで修業し、国立美術学校を志しましたが、三度失敗し諦めました。

建築装飾の職人をしながら、アントワーヌ・ルイ・バリー、カリエ・ベルーズなどの元で修行したのち、イタリア旅行をしてドナテロやミケランジェロを研究することで自分なりの彫刻を習得しました。

彫刻家として評価され、国立美術館のモニュメントを作ってほしいと依頼が来たのはロダン 40歳のことでした。

ロダンの作品は緻密でリアルなことから、人間から型を取ったのではないかといわれたぐらいでした。

ロダンの作品といえば「カレーの市民」そして未完成の「地獄の門」「考える人（地獄の門の一部）」などです。ロダンの作品は人気が高く、いろいろなところに鑄造されています。

そう言えば、子供の頃習い事のために通っていた公民館の入り口に「考える人」の像がありました。なぜ、そこに「考える人」が置かれたのか？そしてこの人は何を考えているのか？

まさに「我思う、ゆえに我あり」ってところでしょうか。

11月13日 うるしの日

1985年に香川県漆器工業協同組合と高松商工会議所が制定しました。京都嵐山法輪寺で木地師の祖ともされる惟喬親王が漆や漆器の製法を祈願し成就した日を「うるしの日」としています。

英語で磁器が **China** と呼ばれるのに対して 漆器は **Japan** と呼ばれます。漆の技法は日本独自のものではないのに、なぜなのでしょう。

古くはマリー・アントワネット蒔絵コレクションと呼ばれ60余点がベルサイユ宮殿やルーブル美術館などに収蔵されています。大航海時代東インド会社によってアジアの珍しいものがヨーロッパに移入していききましたが、日本から多くの漆製品が輸出され、漆器が **Japan** と呼ばれるようになったのでしょう。

ところで、漆器といえば、輪島、会津、津軽が有名ですが、お隣香川県にも漆器の名品があるのですね。

香川漆器のひとつに蒔醬（きんま）塗があります。香川の漆器の創始者とも言われる玉楮象谷（かまかじぞうこく）が、江戸時代の初めごろ、中国や東南アジアの漆器について研究して完成させた技法です。

ミャンマーでは古くから香辛料を薬草に巻いて嘔む習慣があり、その薬草を嘔む習慣のことを「キンマーク」と呼び、キンマークに用いる薬草などを入れる器にほどこされた漆芸技法を「キンマ」と呼んだそうです。タイやミャンマーでは、今でもキンマの漆器があります。

蒔醬塗は1976年に四国で初めて 国の伝統的工芸品 に指定されました。

岡山には郷原漆器と言う、真庭市の蒜山高原で生産される漆器があります。戦後の一時期途絶えていましたが、関係者の熱心な研究と協力で20年ほど前に復活しました。

木目の美しさが最大の特徴で、蒔絵などの柄を施さないシンプルなデザインなので普段使いの漆器として用いられます。2006年、岡山県指定重要無形民俗文化財」に指定されました。

和食がユネスコの無形文化財に登録されるかもしれません。そうすると、漆器の重箱につめたおせち料理や、お椀にいれたお吸い物など、実に文化的といえるでしょう。

昔は、何度も塗り重ねた漆器さえ身近な器だったのが、手軽なプラスチック容器に代わってきて、物に対するありがたみをすっかり忘れていている気がします。改めて物を大切にすることを思い出したいと思います。

11月14日 1901年カール・ラントシュタイナーによってABO式血液型が発表されました。

カール・ラントシュタイナーが血液に種類があることを発見したのは1900年、そして翌年の11月14日に論文を発表しました。そのときにはA型・B型・C型の3種類としていました。

ラントシュタイナーはまず自身の血液型をA型と名付け、残りの血液型をそれぞれB型、C型と名付けたそうです。1902年には第4の型が追加発表され、1910年第4の型にはAB型、C型はO型と名前が付けられました。

カール・ラントシュタイナーは血液型発見の功績により1930年ノーベル生理学・医学賞を受賞しています。1937年には彼と弟子のアレクサンダー・ヴィナーがRh因子を発見しました。

血液型の性格分類や相性は、1970年代に能見正比古氏によって広く世間に知られ、大いに話題になっていますが、科学者の間では根拠が無いといわれています。

ABO型でも亜型があったり、RhのD抗原があったり、血小板や血漿にも型があるとか、血液型にも多くの種類があるようです。そう考えれば赤血球の型だけで性格分類するのは、ちょっと無謀な気がします。

まあ、4つしかないから簡単なので話題にしやすいのでしょう。他人と自分をうまく関係付けるには、さして根拠もないことにさえ頼りたくなるものです。占いなんて、「そう言われれば、そうかも・・・」と思うものです。

11月15日 昆布の日

1982年社団法人日本昆布協会によって制定されました。

「七五三」のお祝いに育ち盛りの子供が栄養豊富な昆布を食べて元気に育つように願いをこめ、また食育の観点からも、日本の伝統文化である昆布を食べる習慣をつけて欲しいとの考えからだそうです。

また、この時期はその年に収穫された昆布が新昆布として市場に出回る頃で、海からの贈り物に感謝する意味もあるようです。

NHKの連続ドラマ「ごちそうさん」では、東京育ちの主人公が大阪に嫁ぎ、食文化の違いに戸惑う様子が描かれています。美味しい昆布出汁をとるために試行錯誤していました。昆布にお酒を塗って、ホウロクで炒ると絶品の出汁がとれるそうです。

昆布は縄文時代から食べられていたようで、平安時代には仏事や神事には欠かせないものとして用いられていたようです。

江戸時代には北前船に乗って、天下の台所、大阪に良質の昆布が集まるようになりました。出汁だけでなく佃煮やおぼろ昆布など上方の昆布文化と技術には独特のものがあるようです。

カップうどんの「どん兵衛」も関西は昆布出汁、関東はカツオ出汁がベースになっているようです。

また南の沖縄では、中国への貢物として昆布を使っていたようで、貢物にならないクズ昆布を庶民が食べていたので、豚肉と煮たり野菜と炒めたりする食文化が発達しました。

繊維質とミネラルが豊富な昆布、昆布だしの湯豆腐もそろそろ美味しい季節になりますね。

11月16日 1946年「現代かなづかい」と「当用漢字表」1850字が内閣告示されました。

第二次世界大戦前から漢字制限主義者と表音主義者が、漢字は数が多く習得が難しいので廃止するか制限すべきという意見が根強くありました。漢字の濫用が軍国主義復活につながると主張した人さえいたようです。

また戦後連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の占領下で、国語教育の簡素化と平明さを目指して、戦時下に作成された標準漢字表内の常用漢字を基に当用漢字が策定されました。

当用漢字は、法令、公文書、新聞、雑誌および一般社会を対象とすると記されています。この当用漢字にない熟語は『同音の漢字による書きかえ（1956年7月5日の国語審議会報告）』によって、代用字と代用語が使用されることになりました。

代用語には「交叉」→「交差」・「衣裳」→「衣装」・「浸蝕」→「浸食」など多数ありますが、特に問題になっているのが「障碍」→「障害」ではないかと思えます。

「障」「碍」ともに差し支えるという意味ですが、これが「害」となると「災いがある」という意味に代わります。極端に言えば、不便だという意味から不幸だという意味に変わるぐらいの差があるのです。

正しいと思って学習してきた熟語ですが、実は、本来の意味とは違った文字を使っていました。そして、そのことを知らなかった……

漢字の書き取りで、トメとハネが違ったとか、長さが長いとか短いとかで×になった経験はありませんか？

当用漢字を定めるときに、基本になったのは手書きの文字でした。そして、それに倣って活字が作られまし

た。そしてその活字で教科書を作り、活字と同じ文字を書くように学校で教えました。

活字には、明朝体や楷書体、教科書体、ゴシック体などそれぞれのデザインがあります。活字と同じ文字を書くように習うなんてナンセンスです。そして前述の内閣告示にも、手書きするときには多少の融通は認めると記載されているそうです。

保をイ+ロ+ホ でもイ+ロ+木 でもOK 糸へんも 下は 点3つでも 小でも OKなはずなのです。絆の半 は ソ でも ハでも OK。でも、これは、おっちゃんの見解。学校の書き取りで×になったからと言って、ブラウンのせいにしないでね。

まあ、最近では手書きすることが少なくなったので、その方が問題かもしれません。

11月17日 将棋の日

日本将棋連盟が1975年に将棋の普及のために制定しました。江戸時代、将棋好きであった徳川吉宗が毎年11月17日を「御城将棋の日」とし、将棋をさせていたことに由来しています。

徳川家康は、囲碁将棋を好み、囲碁・将棋の上手な者に俸禄を支給しました。そのため、大橋家・大橋分家・伊藤家と家元が生まれ、家元、つまり名人が将棋所（しょうぎどころ）と名乗っていました。

将棋所では、門下の中から将棋上手を出し合い、将軍の御前で将棋を指すのが「御城将棋」でした。江戸時代の初めは年に1回、時期は不定期でしたが、吉宗によって11月17日と決められたようです。

将軍の御前で技芸を披露するのが「御城将棋」の建前でしたが、実際に将軍が観戦に来ることはほとんど無かったそうです。対局は1日で終わらせる決まりでしたが、その日に勝負がつかないこともあり、続きは老中の家に移動して行われたりしましたが、それでは老中も迷惑するというので、11月17日以前に対局しておいて、当日には再現するだけの儀式に変わって行ったそうです。

将棋は、BC200年～BC300年頃、古代インドで遊ばれたチャトランガという四人制のさいころ将棋が起源だといわれ、それが東南アジア、中国を経て、日本に伝わったようです。日本にいつ頃伝わったかは、はっきり分っていませんが、平安時代11世紀はじめには貴族の間で遊ばれていたことが分っています。

将棋の特徴として、相手側から取った駒を自分側の駒として使うことが出来るルールがあります。戦後GHQが封建的思想の強い競技や娯楽を排除するために、各方面の識者に意見を聞いていたとき、将棋もその対象になったことがあるそうです。

GHQは「将棋は相手から奪った駒を味方として使うことができるが、これは捕虜虐待の思想に繋がる野蛮なゲームである」として禁止しようとしていました。

その時、将棋連盟代表の升田幸三は、「将棋は適材適所の働き場所を与えている。常に駒が生きていて、それぞれの能力を尊重しようとする民主主義の正しい思想である。

チェスは取った駒を殺すが、これこそ捕虜の虐待ではないか。キングは危なくなるとクイーンを盾にしてまで逃げるが、これは民主主義やレディーファーストの思想に反するではないか」と反論し、将棋は禁止されることを回避することができたそうです。

毒舌家で知られた升田幸三の、さすがの発言といえますね。

11月18日 1904年古賀政男が生まれました。

古賀政男といえば、鼻ひげのちょっと胡散臭いおっさんという感じでしたが、作曲家としては日本の歌謡曲に偉大な足跡を残しました。

古賀氏の代表作といえば・・・

影を慕いて？湯の町エレジー？誰か故郷を想わざる？

東京ラブソディー？悲しい酒？丘を越えて？

そのどれも、おっちゃんの親や祖父母世代のヒット曲ですが、TVの思い出のメロディーやドラマの挿入歌などで、何度も聞いたことがあります。

悲しいメロディーは、まだ貧しかった日本人の切なさや悲しさに寄り添い、また朗らかに弾むメロディーは、元気を出せ、楽しもうと人々を鼓舞する、古賀メロディーは昭和とともにあったといえましょう。

どこか懐かしくて、ちょっと切ない、日本人の琴線にふれる古賀の曲が心にしみるようになるということは・・・そういう年齢になったということなのかも知れません。

11月19日 農協記念日

1947年のこの日に農業協同組合法が公布されたことにちなみ、全国農業協同組合中央会が制定しました。

農協（JA）と言えば、「ちょきんぎょ」と「松下奈緒」ぐらいしか分らない・・・農業をする人の組合で、たまにJAが経営する産直のお店があつたりするけれど、ふつうの人には関係ないんじゃないかって思えます。

明治維新後、地租改正が行われ、税は年貢（物納）から貨幣で納めることになりましたが、相変わらずの重税で、農地を放棄する農民や小作人に転落する者が続出しました。

政府の要職にあった品川弥二郎らは、農民の没落を防ぐため、ドイツの信用組合などを参考に協同組合をつくることを推進しました。

こうして生まれたのが「産業組合法」で、昭和初期の農業恐慌を経て産業組合は農村地域に大きな力を持つ存在となっていきました。

太平洋戦争中は、生産物を一元的に集約する目的で「農業会」という統制団体に改組されました。

戦後、GHQは欧米型の農業協同組合を作ろうとしましたが、当時深刻な食糧難で、食料を統制・管理する必要があったため既存の農業会を改組する形で農協が発足しました。

1995年まで続いた食糧管理制度の下で、農協は農家を守る名目で生産者米価の引き上げを主導し、農家に販売する肥料や農薬、農業機械などの資材コストは、農協によってそのまま米価に算入されました。

米あまりによって減反政策が始まると、減反分は補助金に変わり、農家に還元され、いまや農協は日本における別格の圧力団体となっています。

筒井康隆の短編小説に「農協月へ行く」（1973年刊）があります。農協の団体旅行が派手に行われていて、外国でも「ノーキョー」という言葉が使われる時代でした。

農協の団体なら月旅行もしかねない・・・そう思いました。もちろん筒井氏ならではのナンセンスなお話で、しっかりオチがついているのですが、農協イケイケの時代ならではのテーマでしたね。

11月20日 1948年日本初の競輪が小倉競輪場で始まりました。

競輪は「公営ギャンブルのひとつ」と言えば、あまり印象のよくない人もおられるかもしれませんが、しかし、多少ルールは違えども、「KEIRIN」は今やオリンピック種目にもなった日本発祥のスポーツです。

序盤は先導者に従って、ノロノロとけん制しあうように走っているのが、ジャンが鳴ってからの周回、あっという間に大勢が変わって勝負が決まります。このゴール前の迫力と言ったら・・・

体力と潜在能力と心理的な駆引きと、人間くさい要素が、競艇、競馬とは違った競輪の醍醐味と言えるでしょう。1948年、戦災都市の復興と自転車産業振興を目的として自転車競技法が国会で可決されました。

10月に福岡県で国体が開催され、お金のかかる自転車競走は小倉で引き受けましたが、その競技場をそのまま競輪場として使うことに決め、11月に最初の競輪が開催されたと言うわけです。

この最初の競輪が盛況であったので、その後5年のうちに全国63箇所に競輪場が作られ急速に広がって行きました。現在は44箇所、競輪選手は約2700人、景気がよくない上に娯楽の多様化した現在、経営の厳しい競輪場も多く、閉鎖するところも相次ぐようです。

戦後、ママチャリのような自転車に乗り地下足袋姿で行われていた競輪に人々が熱狂した時代は日本が復興していった時代なのですね。

次はカジノ・・・？

11月21日 1970年名古屋市に日本ケンタッキー・フライド・チキンの第1号店がオープンしました。

1970年3月に大阪万博の会場に実験店を出店し、1日最高280万円の売上を記録しています。この盛況ぶりに自信をもって1号店がオープンしたというわけですね。

今は日本全国に 1180 店、これはアメリカ、中国について 3 番目の多さです。世界には 120 カ国 18,000 店があるそうです。

そもそもケンタッキー・フライド・チキンは、1939 年にハーランド・サンダース氏によって考案された調理されたもので、特別なスパイスの配合は当時のまま現在にその味を伝えているそうです。

ところで、日本で知られている「カーネルおじさん」ですが、カーネルというのは、名前でも大佐という軍の階級でもなく、ケンタッキー州に貢献した人に与えられる「ケンタッキー・カーネル」という名誉称号です。

ハーランド・サンダース氏は 1930 年にケンタッキー州でガソリンスタンドを始めました。そしてその一角に食事の出来るコーナーを作りました。店は繁盛したので規模を拡大しその功績によって、州から「ケンタッキー・カーネル」の名誉称号を与えられたのでした。

1952 年にフライドチキンの調理法を教えて歩合を得るといふ新しいビジネスモデル、つまりフランチャイズを始めました。このビジネスを普及させるために、フライドチキンをワゴン車に積んで各地を回り、1964 年には米国とカナダで 600 店舗を超えるフランチャイズ網を築き上げました。

その後、経営の第一線を退き世界に広がるケンタッキー・フライド・チキンの店を見て回ったそうです。日本にも 1972 年 10 月、1978 年 6 月、1980 年 5 月の 3 回来ています。日本のお店ではサンダースの味を忠実に守っており、スタッフの誠実な仕事への姿勢をたいへん気に入っていたそうです。

KFC の店先に飾ってある立像はサンダース 60 才のときの姿を真似てつくったもので、ほぼ等身大で、身長は 173cm、重量は 26kg あるそうです。これを飾るのは日本が始めたことで、その後アジア・オセアニア地域では、立像が見られるようです。サンダース氏自身も、これは大いに気に入っていたそうです。

アメリカ由来のケンタッキーなのに、すっかり日本の風土になじんでいる気がします。そもそもサンダース氏の立像をディスプレイするのが、日本発祥というのが、興味深いですね。

ブラウンも有名になったら、おっちゃんの立像を飾ってフランチャイズ展開・・・？！

11 月 22 日 1963 年ケネディー大統領暗殺事件が起こりました。

今から 50 年前、そしてその日も金曜日。テキサス州ダラスで遊説中に凶弾に倒れました。事件の様子は、日米が初めて行った衛星テレビ中継で詳細が伝えられました。

リー・ハーベイ・オズワルドが犯人とされましたが、黒幕がいたのか、単独犯だったのか分っていません。オズワルド自身も、何者かに殺害されたといわれています。

初のカトリック教徒の大統領で、理想主義を掲げて彗星のごとく登場したケネディー氏暗殺はアメリカ国民に大きなショックを与えました。65 歳以上の米国民は暗殺事件の際に、自分がどこで何をしていたかを思い出せると言われるほどです。

ところで先日、ケネディー大統領の令嬢であるキャロライン・ケネディー氏が駐日アメリカ合衆国大使に就任し、大変な歓迎ぶりでしたね。

政治経験は乏しいが、これ以上ないビッグネームの駐日アメリカ合衆国大使……。オバマ大統領の思惑はいかに?!そして、そういう人物を近隣諸国は、どのように見ているのか……。ちょっと気になりますね。ところでケネディーと言えばリンカーンと偶然の一致の数々が注目されるという面白い話を見つけました。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんね。

二人とも金曜日に 妻の前で暗殺されました。リンカーンは1860年、ケネディーはその100年後の1960年に大統領として選ばれ、議員に選ばれたのも1847年と1947年、これも、ちょうど100年後にあたります。

また、二人の暗殺後にその後を引き継いだ大統領は二人ともジョンソンという名前で、この二人とも1808年と1908年生まれで、ちょうど100年の差があります。

また、リンカーンを暗殺したブースは1839年生まれ、ケネディーを暗殺したとされているオズワルドは1939年生まれで、これも100年の差があります。

また、この暗殺者は二人とも裁判にかけられる前に別の人間に殺されました。また、リンカーンの秘書はケネディー、ケネディーの秘書はリンカーン...、なんだか気味が悪いぐらいですね。

11月23日 1996年 バンダイから「たまごっち」が発売されました。

ブームになりましたね。子供にせがまれて買っちゃいました。かなり話題になってからでしたから、品薄でなかなか手に入りませんでした。

しょっちゅう糞を流してやらなきゃならなかったり、餌やおやつやらをあげなければならなかったりするんですよ。ゲーム機が糞をするというのが、実にショッキングだった!

こまめに世話をしているつもりなのに、なかなか長生きしなくて、ゲームに向いていないのか、動物を育てることに向いていないのか……。何とも、せわしない。

食べたり、排泄したり、遊んだりすることで、ゲーム機が生き物のように思えた子供たちもいたかもしれませんね。

たまごちは世界中で1996年から2年間に4000万個の売り上げを記録しました。しかし、この想定外の大ブームに、増産過剰になったバンダイは、不良在庫をたくさん抱えてしまったそうです。

フラフープも、ブームは数ヶ月といわれていましたが、この初代たまごっちのブームも数ヶ月、流行というのはそうしたものです。

最近でも「たまごっち」って販売されています。携帯電話を使ったり、赤外線通信機能を使ったりと、ずいぶん進化しているんですね。

11月24日 1950年電気事業再編成令が公布されました。

それにより電力事業が地域ごとの9社に再編されました。

発送電分離という言葉は、福島原発事故以来、しばしば耳にする言葉ですが、日本における電気事業の歴史を見れば、複数の電灯会社が送電線を平行して張り巡らし、ひとつの家庭の需要を互いに争奪するといった過当競争の時代もあったのです。

1886年日本で最初の電力会社「東京電燈」が設立され、その後相次いで全国に電燈会社が出来ました。10年後には33もの事業者がひしめく状態で、それらすべてが民間企業でした。まだまだ庶民には高嶺の花という時代です。

明治の終わり電燈の普及率は2%であったのが、昭和のはじめには87%になり、400を超える電燈会社があったようです。それが昭和初期の大恐慌で、事業者間の合併・買収による激しい競争が行われ、淘汰されていきました。

日中事変が始まると挙国一致、戦時統制の一環で電気事業は国家統制されることとなり、国策会社である日本発送電と9つの配電会社に統一されました。

それが、戦後「電気事業再編成令」の公布により、現在のような地域によって電力会社が割り振られる分割民営化（九電力体制）となりました。

発足したばかりの9電力会社は資金的に厳しく、増加する電力需要に対応する電力を供給することが出来なかったため、国の特殊会社として電源開発株式会社が設立されました。一般電気事業者に対して電気を供給する卸電気事業者は、現在電源開発と日本原子力発電の2社があります。

今年3月発送電分離と電気料金の全面自由化を実施する電力改革の政府方針案が了承されました。欧米で実際に行われている発送電分離には、メリット、デメリットそれぞれにあるようですし、その上TPPも絡んでくると、どうなることなのか……。

まさか、太陽光パネルを置いて自家発電しなければ満足な電気が享受できないなんてことにはならないでしょうね?!

11月25日 1835年アンドリュー・カーネギーが生まれました。

鋼鉄王、企業家、大富豪、そして慈善活動家として有名で、マンハッタンのカーネギーホールといえば、音楽の殿堂として知られています。

カーネギーはイギリスのスコットランドに生まれましたが、13歳のとき家族とともにアメリカに移住しまし

た。そこで紡績会社に勤めることになりました。学校には10歳ぐらいまで下通えなかったようです。

何度か転職して電信会社に入社し、モールス信号を聞いただけで内容が分る特技を身につけ電信技師に昇格しました。読書好きで、勉強熱心、しかもどのような仕事もいとわない忍耐力と自主性をもっていたそうです。

18歳の時にはペンシルバニア鉄道に引き抜かれ、ピッツバーグの責任者になりました。ここで経営に必要な多くを学んだようです。

まだ普及していなかった寝台車の会社に投資したことで財を築き、徐々に資金を蓄え鉄橋会社を創設しました。

カーネギーの「富」に対する考え方は、次の名言によく表れていると思います。

33歳のとき、カーネギーは「蓄財は偶像崇拜の悪い種の一つだ。金銭崇拜ほど品位を低下させる偶像はない」そして「金持ちとして死ぬことほど不名誉なことはない」と書き残しています。

裕福な人はその富を浪費するよりも、社会がより豊かになるために使うべきだ。

また、世界平和のために、1910年にはカーネギー国際平和基金を創設したり、カーネギー国際関係倫理協会という独立した非営利組織を作ったりしました。

しかしながら1914年には第一次世界大戦が勃発し、カーネギーは大変ショックを受けたようです。それでもカーネギーの国際関係についての考え方は、後の国際連盟結成の基盤を築くのに役立ったといわれています。

中途半端な5000万円ほどで、あたふたしながら記者会見しなければならぬ人もいるけれども、本当の大富豪というのは「お金は人のために使うもの」と言えるのですね……

11月26日 1948年ポラロイド社が世界初のインスタントカメラを発売しました。

ポラロイドといえば、インスタントカメラの代名詞として知られていますが、ポラロイド社は2007年4月にインスタントカメラの生産を終了し、翌夏にはフィルムの販売も終了、その年末には破産宣告をしました。

デジタルカメラの普及で需要が激減したためといわれます。即時性と改ざんされていないことが求められる犯罪捜査や医療分野などで必要とされていましたが、それも次第にデジタルカメラに取って代わられていきました。

ところが不思議なことに、富士フィルムではチェキが好調に販売実績を上げていますし、サミットグローバルグループがポラロイドの販売を引き継いでいます。

使い捨てカメラのことを「インスタントカメラ」と思い込んでいる若い人も多いのに、撮った写真を友人同士で交換したり、メッセージやサインを書き込んで手渡したり、インスタントカメラを楽しく使っている人も多いということのようです。

インスタントカメラを発明したのは、エドウィン・ハーバート・ランドというアメリカの発明家で、偏光フィルターを使ったサングラスやレンズフィルターを開発して会社を起こしました。

1947年には社名をポラロイド社とし、インスタントカメラを開発しました。正式名称は「ポラロイド・ランド・カメラ」発明のきっかけは、3歳の娘が「どうして撮影した写真がその場でみえないの？」という素朴な疑問だったそうです。

最初のカメラは60台だけ作ったそうです。そんなに売れるはずがないと考えていましたが、発売日には用意した57台が完売したそうです。「写真を撮ってすぐ見たい」と思ったのは、ランドの娘さんだけではなかったのですね。

デジタル全盛の中にあって、インスタントカメラが新しいコミュニケーションツールになっていると言われます。フィルムが無く、何カットでも気軽に撮影できるデジタルカメラとフィルムは、少々高いけれども、サインをしたり書き込みをしたりして、その場で共有できるインスタントカメラは、それぞれにうまく棲み分けをしているのかもしれない。

11月27日 1894年松下幸之助が生まれました。

ところで、先日浅草雷門の大提灯が新しくなりました。この提灯は53年前1865年に火災で焼失したままだった雷門と大提灯を松下幸之助氏が再建したことに始まります。その後、10年おきに作り替えられて、今回が6回目だそうです。

ところで、提灯下部の「松下電器」の銘板はずっと同じものです。2008年に「松下」から「パナソニック」に社名が変わりましたが、創業者以来の縁に配慮して今回もそのまま使ったそうです。

「経営の神様」と言われ、日本の実業家で最も有名な人物が松下幸之助でしょう。一昨年NHKのドラマで「神様の女房」で、松下幸之助氏とその妻むめのさんの生涯が放送されていました。

ドキュメンタリーや伝記とは違った人間くさい松下幸之助が描かれていましたが、どのように事業を起こし、大きくしていったか、どのような苦労があったか、よく分かりました。原作は高橋誠之介氏で松下家執事となり夫妻の最期まで看取ったという経歴を持っています。

松下幸之助氏の凄いところはたくさんあると思いますが、そのひとつのエピソードに戦国の世を終わらせ、長きにわたる安定の世の礎を築いた3人よりも「自分の方がエライ！」と言った話があります。

それは、こういう話です。

「信長はエライ。常識にとらわれない発想の持ち主や」

「けど、秀吉は信長よりもエライ。信長の悪かったところを学んで周りへの気づかいを忘れない“人たらし”で、雑兵から天下人に登りつめた」

「けどな、家康は秀吉よりもエライ。秀吉のいいところと悪いところを学んで、江戸時代が幕末まで続くように経営したな」

そして、こう言います。

「けどな、信長よりも、秀吉よりも、家康よりも、ボクの方がエライんやで。だってボクはな、信長と秀吉と家康のいいところと悪いところを勉強して、経営に活かしているからな」

最後に、幸之助は話を聞いていた社員にこう言いました。

「けどな、キミの方がもっとエラくなれるんや。信長と秀吉と家康とボクのいいところと悪いところを勉強して、仕事に活かせばええんや」と。

愛されるビジネスマンになりなさいとも言っています。愛されるためには、まず正直であること、それは自分自身に対しても。そして感謝すること、そうすれば思いやりの心も生まれ、人の立場を尊重する行動もできると。

それこそが、ともに栄え、ともに幸せに生きようという、いわゆる PHP の考えになるのだそうです。

松下幸之助氏の名言や生き様には、やはり学ぶところがたくさんあるようです。

11月28日 太平洋記念日

1520年 マゼランが自らの名前をつけたマゼラン海峡を抜け、太平洋に出たことを記念した日。

大西洋に比べて天候が良く平和な日が続いたので、この海を **El Mare Pacificum (Pacific Ocean)** と名づけました。**Pacific** は穏やかな、平和なという意味ですから、日本語の訳の太平（泰平）は、当を得ているようです。

ところで、日本人は「あの海」を何と呼んでいたのでしょうか？

江戸中期の儒学者新井白石は『西洋紀聞』で、ラテン語読みをそのまま使っており、地動説を紹介した司馬江漢は、西洋系の世界地図を銅版画にする時に太平洋を「大東海」と書き入れています。

と言うことは、「太平洋」が一般化するのには、もう少し後の時代のようなようです。

日本人にとって海は海で、名前が無くても不便ではなかったのでしょうか。でもヨーロッパやアメリカから人が来るようになって、地球には他にも海があることが分り、あの海に名前が必要だと分かったってことでしょうか。

「泰平の眠りをさます上喜撰 たつた四杯で夜も眠れず」これ、太平洋から来たって意味はなかったのかな？

昔中国では、ヨーロッパのことを「大西洋」と呼んでおり、そのままヨーロッパの海という意味で「大西洋」となったという説があります。

もし、マゼランが太平洋に出たとき、海が荒れていたら別の名前になっていた可能性があるのですね。今より世界が果てしなく広がった時代の話です。

11月29日 1835年 西太后が生まれました。

中国三大悪女のひとりと言われる西太后は、清朝第9代皇帝咸豊帝の妃で第9代皇帝同治帝の生母です。子の同治帝や甥の光緒帝を虐待して早死にさせ、ライバルの東太后を毒殺し、光緒帝妃の珍妃を宦官に銘じて殺したと言われています。

権力を握ってからは、海軍増強費を豪華な造りの頤和園の建造に充て、遊興三昧に国費を乱用したそうです。光緒帝が変法自強運動に賛同して戊戌の変法を行うとたちどころに妨害し弾圧しました。

西太后の時代はアヘン・アロー戦争や義和団・太平天国の乱など西洋列強と国内の叛乱という難問を抱えた時代でした。女だてらに権力をほしいままに操ったことで、非難を受ける結果になったと考えられます。国が安泰で豊かな時代であれば、さほどでもなかった贅沢も、当時では傾国の悪女と言うわけです。

浅田次郎氏の「蒼穹の昴」は、西太后の時代に生きる二人の青年を中心に描かれた時代小説で、中国と日本の合作ドラマが製作されNHKで放送されました。

なんと西太后を日本人の女優田中裕子さんが演じていましたが、なかなか貫禄でした。中国では「おしん」の女優として知られていたようです。ドラマでは、それほど悪女とは描かれてなかった気がしました。

11月30日 1919年 キューピーの前身、食品工業が創業しました。

食品工業を創業した中島董一郎は、農商務省の海外実業実習生に選ばれ欧米に派遣されました。

そこで、シャケ缶とタマネギのみじん切りにマヨネーズを混ぜた一皿を饗せられた中島氏は、美味しくて栄養価の高い食品で欧米人の体格がよいことに納得し、日本人の栄養不足を痛感しました。

そして日本人も、もっと栄養のよいものを食べなければならないと考えました。そこで、まず中島董商店を起こし缶詰の製造を手がけました。また野菜をたくさん食べられるように、マヨネーズを販売するために食品工業を創業しました。

実際にマヨネーズの販売を始めたのは1925年、当時はまだ生野菜を食べる習慣がなく、マヨネーズはゆで野菜やカニや鮭などにかけて食べるものでした。

輸入品の2倍の量の卵を使い、油やお酢も高価な食材を使ったマヨネーズはかなりの高級品で、三越などの百貨店でしか販売されていませんでした。

はがきが1枚5銭のときにマヨネーズ126gが50銭、いまなら1700円ぐらいでしょうか。相当の高級品です。そのため、なかなか広まることはありませんでした。ポマードと間違えて髪に塗ったというエピソードまで残っているそうです。

そこで中島氏は販売店を対象に試食会をしたり雑誌や新聞に広告を出したりしました。そのかいあって、十数年後の1941年には、当初の1000倍を売り上げることができました。

戦争中は、材料不足で一時製造をやめていましたが、戦後、順調に売り上げを伸ばしマヨネーズは一般的な調味料になっていきました。

それで、今は「マヨラー」とか「マイマヨ」という言葉さえできるほど、マヨネーズはみんなの好きな調味料になっていきました。